

## 米国アイオワ州立大学畜産学部学生さん達のご来社

米国アイオワ州立大学(ISU)畜産学部グレイナー(Greiner)教授とスタール(Sterle)教授を中心とした視察チームが5月16日(木)、グローバルピッグファーム(GPF)に来社されました。チームは畜産学部の学生さん達総勢26名で、日本における養豚ならびに豚肉に関する調査・研究を目的としての来日です。GPFには2016年、2019年に続き3回目の来社となりました。



桑原社長の WELCOME メッセージから始まり、常務取締役の高橋がスライドを使い GPF ならびに和豚もちぶたの説明をさせていただきました。GPF の特徴である家族経営の養豚農家による、生産のみならず財務データをも共有したベンチマーキングや銘柄豚肉『和豚もちぶた』生産とそのポークチェーン確立のためのユニークな取り組み等々、大変に興味を持たれていました。

長時間に亘ってのプレゼンテーションとなりましたが、途中、時差による疲れも見せず、積極的に非常に多くの質問が有りました。



今回は、初の試みとして学生さん達からも生産者目線での米国養豚産業に関するプレゼンテーションを頂戴しました。当日は群馬地区の取締役の方々（赤地養豚株式会社赤地耕太郎社長と佐藤ホッグファーム(株)佐藤努社長）にもご参加いただき、意見交換をされました。尚、通訳はISU 卒業生で8月にはリサーチアシスタントとして復学を予定されている平野翔輝さんにご協力いただきました。有り難うございました。





セミナー終了後にはアイオワよりお持ちいただきましたギフトを頂戴いたしました。



セミナー後の昼食会は和豚もちぶたのバーベキューとハム・ソーセージ等の加工品もご堪能いただきました。塗廣獣医をはじめ若手の社員の方々もコミュニケーションを図られ、情報交換の良いチャンスとなりました。



翌 17 日(金)、ISU チームは新発田市を表敬訪問されました。副市長の伊藤純一様より歓迎のお言葉と農政課長様より新発田市の農業に関するプレゼンテーションを頂戴しました。伝統的かつ主要な農産物であるお米の生産に加え、新たにこだわりのアスパラガスや大きくて甘いイチゴの生産等々、積極的に取り組まれている姿勢を目の当たりにされました。通訳は(株)スワイン・エクステンション&コンサルティングの大竹聡社長にお願いいたしました。有り難うございました。



その後、しばたパッカーズ(株)を訪問され、和豚もちぶたポークチェーンの重要な位置付けとなるパッキングプラントの高い衛生レベルと品質管理を視察されました。安心・安全な豚肉生



産のための検査獣医の先生方との緊密な関係やスムーズな作業工程、ト畜後の最終製品に至るまでの徹底した管理体制に驚いていられま



した。

昼食の際には田代社長よりしばたパッカーズの重要な機能とその役割についてご説明いただきました。GPFのメンバー農場さんならびに問屋さんやスーパーさんとの太いパイプと信頼関係についても熱心に聞き入っていました。



和豚もちぶたのしゃぶしゃぶと加工品、更には新発田市のこだわりのイチゴにも舌鼓を打たれました。



今回の訪問が米国アイオワ州立大学畜産学部とグローバルピッグファーム(株)との関係を緊密なものとし、両者の今後の更なる発展に寄与することが期待されます。ご協力いただきました皆様方には、改めて感謝申し上げます。